



いりえ まさし



まぐら こうじ



みわ ちあき



## ふるさとへ

36

に え だ  
新江田智司さん  
(日置町狩宿在住)



### 日置が家族の故郷だ!

私の好きな歌に、「想えば遠くへ来たもんだ、故郷離れて……」で始まる武田鉄矢の歌があります。私がこの歌同様、故郷京都を離れたのは、今から、十六年前のことです。山口県の教員に採用され赴任したのが、日置町の隣り、長門市の深川小学校でした。その後、同市青海島小学校、萩市見島小学校を経て、そして二年前からは、かねてからの希望だった山口県埋蔵文化財センターに勤務しています。日置町には、見島からの転勤と同時に家族四人で転入してきました。転入した五月には母が亡くなりました。その二ヵ月後の七月には待望の長男が誕生し、もうすぐ二歳の男

誕生日を迎えます。私たち家族にとって日置町での生活の始まりは、生涯忘れることのできない年にもなりました。三人目は男の子に違いないと帰郷のたびに話していた母親に、長男、新居、そして私たち家族が定住の地として選んだ、日置町の素晴らしい景色を見せることができなかったことが唯一の心残りです。日置町で暮らし始めて三年目となりますが、風が強いことには多少驚かされますが、子供を育てるには、最高の環境であると思います。人口五千人にも満たない小さな町であるにもかかわらず、小中学校をはじめ、地域作りセンター、運動公園等、公共施設

## 日置俳壇

〈兼題 短夜〉

明易し鮮魚の車疾走す 尾方ヒサ子  
死後のこと簡条書きとし明易 白石 敏江  
明け易し朝刊受けてひと休み 吉村一泉女  
縁うすき母追う夢や明易し 国司ハル子  
短夜や看護の庭に闇ほのか 西村亥子代  
短夜やサイレン低く魚糶告ぐ 松岡ヨシ子  
短夜の静けさ破る草刈機 池永 君江  
短夜の心をみだす風の音 秋枝タキ子

〈雑詠〉

友訪えば四葩の蔭より応えあ 宮本やすの  
亡き母の部屋の風鈴音のかな 古谷 桃月  
吹く風も瀬音も夏の譜をかな 秋枝タキ子  
美しき闇夜となりぬ 初蛩 河内みさほ  
命の炎蓄に秘めしアマリリ 河内みさほ  
紫にささがけ朝の白菖蒲 白石 敏江  
五月雨や空家のまゝの家一戸 木村 一路  
仕事着のまゝに店主の差す 吉村一泉女  
新茶

が充実しているのには感心させられます。それとあわせて共働きの親にとっては子供が安心して遊べるという、都会にはない地域全体の持つ温もりも、日置町を生活の場として選んだ理由の一つです。私には、京都という故郷があります。子供たちにとっては日置町が故郷になります。「故郷は、遠きにあります、想うもの」ではなく、「故郷は、近くに在りて、造るもの」。

### 筆者紹介

平成七年四月に萩市見島から転入。家族は妻、子供三人の五人暮らし。現在、山口県埋蔵文化財センター勤務。